

1. 高等教育の構造

1-1. 高等教育の規模

1-1-1. 高等教育機関

高等教育を提供する機関は、従来、大学セクターと地方教育当局の設置するポリテクニクや高等教育カレッジの公的セクターの2元化されていたが、後に説明するように、1988年教育改革法、1992年継続・高等教育法により、公的セクターの高等教育機関が地方教育当局から独立し、自ら学位を授与する権限を付与される道が開かれ、高等教育機関は一元化された。

2000年末現在で、大学は112機関、高等教育カレッジは54機関が存在し、その地域的な分布は表1のとおりである。なお、これらはイングランドの1大学（バッキンガム大学）を除いて、いずれも政府交付金を受けて運営されている*1。

表2-1 高等教育機関の地域的分布（2000/2001年度）

地域区分	大 学	高等教育カレッジ
イングランド	88 ※	42
ウェールズ	9*	4
スコットランド	13	6
北アイルランド	2	2
合 計	112	54

※ ロンドン大学の構成体である16校を含む。

* グラモーガン大学とウェールズ大学を構成する8つの大学・カレッジの計

<資料12：英国の高等教育機関一覧参照>

1-1-2. 学生

高等教育機関に学ぶ学生の数は、1980年代から1990年代前半にかけて大幅に増加し、1960年代には約20万人のフルタイム学生が在学していたのに対し、現在では、パートタイムを含めると約185万人（このほか継続教育カレッジで高等教育レベルの教育を受けている者が約23万6,000人）の学生が在学するに至っている。

サッチャー政権発足当時の1980年代初頭、10数パーセントにとどまっていた進学率は、現在該当年齢人口の3人に1人以上が高等教育に進学するようになった。こうして英国の高等教育は、今や「マス段階」を経て「ユニバーサル段階」へと向かいつつある。このような学生数の増加は、中等教育修了者の進学率の上昇と成人学生の増加の2つの要素に支えられていた。今日、イングランドとウェールズで約30%、スコットランドで40%、北アイルランドで45%の若者（21歳未満）が、高等教育に進学している。また、学士課程の学生の20%は、21歳を超えてから当該課程にフルタイムで入学している。また、学士以外の準学位課程や、

大学院レベルの課程では、フルタイムよりもパートタイムの履修形態をとる学生の方が多いことが特徴となっている。

表2-2 英国高等教育機関の学生数 (1999/2000年度)

レベル	学生総数	フルタイム	パートタイム
学部 (学士課程) (うちイングランド)	1,000,410人 [100%] (810,260)	906,480 [90.6%] (731,510)	93,920 [9.4%] (78,750)
学部 (学士以外) (うちイングランド)	447,310人 [100%] (388,070)	120,920 [27.0%] (98,920)	326,390 [73.0%] (289,150)
大学院 (うちイングランド)	408,620人 [100%] (342,290)	151,330 [37.0%] (125,490)	257,290 [63.0%] (216,800)
合計 (うちイングランド)	1,856,330人 [100%] (1,540,610)	1,178,730人 [63.5%] (955,920)	677,610人 [36.5%] (584,700)

注：留学生を含む。

出典：HESA *Reference Volume Students in Higher Education Institutions 1999/2000*,
Table A, 9a, 9b

さらに、英国では200か国20万人以上の留学生が学んでおり、全学生人口の約12%を占めている。このうち46%はヨーロッパ共同体 (European Union) の学生である。

専攻分野を男女別にみると、男性では工学 (85%)、コンピュータ科学 (77%) が多数を占めるのに対し、女性では医療 (83%)、教育 (72%) 関係が多数を占める (1999年度)。

1-1-3. 教員

高等教育機関に雇用される教職員は全英で約30万人、このうち教員数は、約14万人、うちフルタイムで11万4,000人、パートタイムで2万2,000人である。また、64%が男性、36%が女性であり、フルタイム教員の比率の方がパートタイム教員の比率より男女差が顕著である。また、教育と研究を主たる職務とする教員は81,510人 (60.0%)、研究センターが41,390人 (30.5%)、教育中心が12,850人 (9.5%) となっている。

表2-3 教員の地位及び職務からみた構成 (1999年)

地位		Professors	Senior Lecturers & Researchers	Lecturers	Researchers & Other grades
計	135,750人	12,480	23,300	49,450	50,530
	フルタイム (113,790)	11,670	21,510	41,670	38,950
	[男/女]	[10,310/1,360]	[16,530/4,980]	[26,260/15,410]	[23,470/15,480]
	パートタイム(21,960)	810	1,790	7,780	11,580
	[男/女]	[730/80]	[1,150/640]	[3,370/4,410]	[5,360/6,220]
	構成比 100%	9.2	17.2	36.4	37.2

職務		教育&研究	研究中心	教育中心
計	135,750人	81,510	41,390	12,850
	フルタイム (113,790)	71,860	35,080	6,860
	パートタイム(21,960)	9,650	6,310	5,990
	構成比 100%	60.0	30.5	9.5

出典：HESA *Reference Volume Resources of Higher Education Institutions 1999/2000*, Table 14, 15.

1-2. 高等教育財政

1-2-1. 高等教育機関の財源

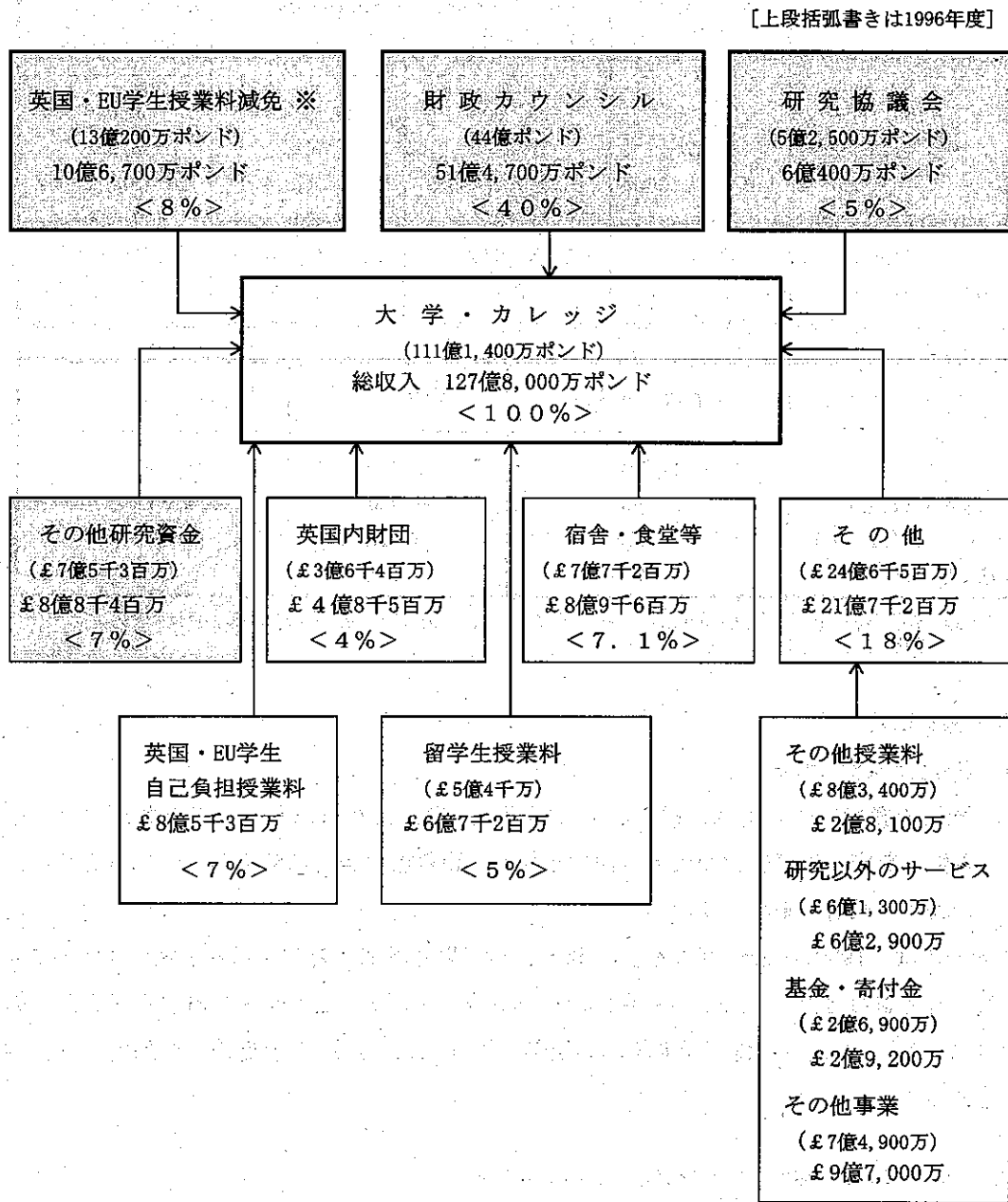
高等教育の費用については、従来から大部分が公費により負担されてきたが、サッチャー政権以降、政府の高等教育費支出が抑制されて公費負担の割合は減少しつつあるものの、依然その過半を政府が負担している。

具体的には、1999/2000年度の場合、全英の高等教育機関の総収入は約128億ポンドであり、このうち財政カウンスルの交付金が51億ポンド（40%）、その他政府機関の資金が26億ポンド（20%）、非政府機関（授業料、産業界、財団法人等）からの資金が51億ポンド（40%）となっている。

1-2-2. ファンディング機関とファンディングのシステム

高等教育機関への交付金の配分に当たって、政府はガイダンスやプライオリティーを設定することはあるが、個々の高等教育機関への具体的な補助金の配分は、原則として財政カウンスルが行う。イングランドの高等教育機関については、HEFCE (Higher Education Funding Council for England)、スコットランドはSHEFC (Scottish Higher Education Funding Council)、ウェールズはHEFCW (Higher Education Funding Council for Wales) である。北アイルランドについては、NIHEC (Northern Ireland Higher Education Council) という組織があるが、これは助言機関であり、補助金配分は北アイルランド教育省 (Department of Education Northern Ireland : DENI) が行う。

図2-1 英国高等教育機関の主要収入構造 (1999年度)



※ 地方教育当局を通じて支給されていた給付制奨学金（名目上の授業料分）は、1998年9月以降に大学に入学した学生には適用されず、学生自身が約1,000ポンド（実際に教育に要する経費の4分の1相当額）を負担することとなった。（ただし、家計の所得水準に応じて授業料の減免が行われ、98年度の場合、実際には負担額全額を支払った者[36%]、一部を免除された者[20%]、全額免除された者[44%]、であった。）

出典：HEFCE *Higher education in the United Kingdom 01/56* (2001)

なお、英国は、イングランド、ウェールズ、スコットランド及び北アイルランドの4つの地域 (country) からなる連合王国であり、それぞれ特色のある教育制度を持っている。本稿ではこのうちイングランドの高等教育を主たる対象として考察するが、その主たる理由としては、一つに、英国大学の大半がイングランド集中している。また、データ・情報が比較的入手しやすい点という調査研究上の便宜がある。さらに、初等中等教育制度に比べて高等教育は、政策的な地域差は少なく、教育プログラムなどの相違はあるものの、設置形態や財政のあり方など基礎的な制度についてはほぼ連合王国を通じて共通しているとみることができる。